

ゆめ わらわ 夢 臺

菅波 茂

2012年11月吉日。

岡山国際ホテルにて中国電力会長の山下隆氏と「2013年新春の対談」を行った。春風駉蕩。いつまでも尽きぬ話を樂しめるお人柄だった。企画をしていただいた電気新聞社にはこの紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

「そのあとが恐ろしかった。我々はあの戦争中にたくさん殺された。これに対して日本人はどう考えているのか」と。殺気立った雰囲気変わった。後味悪く安宿に引き上げた鮮明な記憶である。

私は1946年に広島県福山市で生まれた。1964年に岡山大学医学部に入學して以来、岡山に居住。1971年にAMD Aの源流となる岡山大学クワイ河医学踏査隊

をタイとミャンマーとの国境地帯にあるバゴダ農場(タイ領内)に派遣。以後、国際医療活動を続けている。1984年に設立したAMD Aはアジアを中心に30カ国に支部がある。平和を語れば必ず支部の関係者に太平洋戦争の犠牲者がいる事実を避けられない。2000年から太平洋戦争の犠牲者の合同慰霊を日本と現地の宗教家の人たちの協力により実施してきた。「戦争の記憶は三世代―百年たない」と歴史にならない」との思いからである。「AMD A魂と医療のプログラム……ASMP」として実施した国と地域は

広島からの平和のメッセージ

をタイとミャンマーとの国境地帯にあるバゴダ農場(タイ領内)に派遣。以後、国際医療活動を

2004年末に起きたスマトラ沖地震大津波の犠牲者慰霊をインド被災地で行う中島妙江・太生山一心寺住職(手前左) 2005年



沖繩県は太平洋戦争激戦地など現地の宗教家と行う合同慰霊を呼びかけてはどうだろうか。それだけでなく、世界各地で多くの犠牲者が出る大災害時に被災者救援活動を実施してはどうだろうか。世界には広島県出身の移民の方々がいる。組んではいかがであらうか。

人は誰でも他の人の役に立ちたい気持ちがある。必要とされることは最高の喜びである。広島市における原爆慰霊祭に加えて、海外における合同慰霊と災害救援活動を併せて実施する時に「ヒロシマ」は平和へのメッセージとして普遍的な価値を持つことができる。確信する。

広島県人としてこのよいうな「ヒロシマ」の普遍的価値創造に参加できれば望外の喜びである。(AMD Aグループ代表)

イリピン、インドネシア、カンボジア、ミャンマー、ベトナム、スリランカ、モンゴル、パプアニューギニア、サイパン、台湾である。2004年末に発生したスマトラ沖地震大津波以降は災害被災者各国から人を集めるなら、広島県は日本全国に